

令和6年度 第2回青少年育成委員会 会議録

- 1 日時 令和6年10月5日(土) 午後2時～午後5時
- 2 会場 豊田市青少年センター 会議室 A
- 3 出席者 委員／大村恵(委員長)、佐藤義則、福田猛、田浦武英、斎藤茂美(副委員長)、守随純子、野畑清敬
オブザーバー／杉山基明(副理事長)、藤本聡(専務理事)、宇佐美由紀(市こども・若者政策課長)、近藤雅雄(市ものづくりサポートセンター所長)
事務局／猿谷直記(青少年部長)
青少年センター 荘田元宣(所長)、松浦友洋(副所長)
総合野外センター 山中浩之(所長)、山村聡志(副所長)
産業文化センター 永坂正和(所長)
- 4 内容 総合野外センター山村の司会により、以下のとおり進行した。

(1) 会の成立

委員8名中7名の出席を得て、委員会規則第6条第1項に基づき、委員会の成立を報告した。

(2) 主催者あいさつ

杉山副理事長があいさつをした。

これ以降、大村委員長が議事を進行した。

(3) 議事

①議事1 令和7年度事業計画(案)について

事務局が資料(掲載省略)に基づいて説明。

議事1について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

野外センターの業務体系に、ガールスカウトも記載してください。

青少年部の共通事項として防災について取り組んでいただきたい。野外活動は生きる力・知恵を習得でき、防災活動と親和性がある。野外活動と防災がリンクするような事業を企画いただきたい。

(委員)

中高生世代を切れ目なくつなげていくことは良いことです。同時に、野外センターへのアクセスを心配します。中高生の来所はどうなっているか。

(事務局)

中高生の自力での来所は難しい。事業化してバスを出せるようにしていきたい。

(委員)

歩くところからプログラム化したらどうか。大人が無理と決めて押さえているところがあるが、やってみると達成感や自身の能力を知ることができる。

(委員)

市の取組みとタイアップした取組みができないかを感じる。1月認証予定の「子どもにやさしいまち」の認証を、青少年部で①認証を祝う②子どもたちに知ってもらい取り組みを事業化できるとよい。来年度事業化を検討してほしい。

②議事2 青少年育成委員会会議録の公開について

事務局が資料（掲載省略）に基づいて説明。

議事2について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

一問一答形式にする必要があるのか。結論を記載すればわかりやすいのではないか。

(委員)

議論をまとめる作業が大変ではないかを感じる。このような記録の方が作りやすい。

(事務局)

会議録には様々な形がある。財団の文化振興委員会との整合性をとって提案させていただいた。

(委員)

見てもらうための工夫として、わかりやすくしたらということ。

(委員)

話したことを忠実に記載し、まとめない方がよい。要約者の恣意的な部分が入ってしまい、本意が伝わらなくなってしまう。正確に伝えてほしい。文化振興委員会の公開の意図が、正確性が周知かわからないが、本来は、なるべく話した通りのことを出すのが普通だと思う。

(委員)

公開の目的は、周知を図り、財団の運営に理解を得ることであり、そのために、発言を一つ一つ書いた方がよいか、全体を取りまとめた方がよいかという意見だと思う。

(委員)

財団のHPのアクセス数はどれくらいあるか。

(事務局)

現在、把握していないので、調べてお知らせしたい。

(委員)

本委員会の会議録はどこに載りますか。

(事務局)

情報公開用のページに掲載し、他の会議録と合わせて閲覧できるようにしたい。

(委員)

2つとも載せるようにできないか。決定事項を記載したページから、詳しい会議録へリンクで飛べるようにしたらどうか。もし、アクセスが無ければどちらかをカットしてもよい。行政のHP等はあまりにも詳しくすぎて、本当に探したい情報を見つけるのに時間がかかる。

今回の目的はどちらか。

(事務局)

情報公開、つまり委員会の運営の公開が目的です。

(事務局)

PDFで公開になるため、該当箇所へリンクを飛ばすことはできない。

(オブザーバー)

事業計画(案)もモニタリングの評価も合議で決めるという感じではありません。どちらかという、皆さまからいろんな意見をいただいて、それを事務局側がしっかりと把握をした上で、次の事業展開に活かす、又は事業に変更を加えるものが大半だと思う。

いろいろな意見がある中でこれにしましょうではなく、委員の皆様から頂戴したいろいろな意見を事務局が考えて事業展開につなげていくものと理解している。

最終結論が合議によって決定されるものが大半であれば、結果の記載でよいと思うが、かなり難しいように思う。

(委員)

会議録をわざわざ出さなくても、財団として、委員会をそれぞれ設置して、委員の意見を聞きながら事業をやっていることを、きちっと表明したらよいのではないか。

(オブザーバー)

文化振興委員会で委員の方から出た意見としては、「私たちがこうやって委員会を作って発言している事実を市民の方はほとんど知らない。私たちがこういった活動をしていることも知ってほしいし、この委員会を活かして財団が事業をやっていることも、しっかりとPRすべきではないか。」という意見があった。HPで会議録を丹念に見る方はほとんどいないかもしれない。ただ、文化振興委員会の皆様は、自分のやっていることがどこにも出てこないのはちょっとどうかとのことだった。市民や学識者の代表として出てきているにもかかわらず、活動している経緯が全く分からない状況はよくないことなので、どういう会議の中でどういう議論がされているかを明らかにするべきだという意見だった。それはもっともだと思ったので、青少年育成委員会も足並みを揃えてやったらどうかという提案をした。

(委員)

そういう趣旨であれば一つ一つのご意見について記載が必要かと思う。

モニタリングの資料は掲載しないとなっているが、口頭で話したことが記載されるのか。

(事務局)

口頭で出た意見を記載する。個人・団体・施設の名称等が特定される内容でないか、委員の方に発言内容の確認を行う。

(委員)

支障があれば名称等伏せることができるということか。

モニタリングの資料は掲載しない方がよいのか。

(事務局)

発言した委員の指名が直接結びついてしまう恐れがあるので、モニタリング資料の掲載は考えていない。その方が、委員の方は評価書で遠慮せずに評価していただけるのではないかと思う。

(委員)

実際には評価書に基づいて報告するので、口頭で話したことを載せるのとあまり変わらない感じがする。

(委員)

公開用(案)の中に、公開資料と非公開資料とあるが。

(事務局)

モニタリングに関する物を非公開とする。それは、委員会の中で公開・非公開を確認していく。

(委員)

公開のできる資料はPDFか。

(事務局)

はい。

(委員)

事務局からの提案の方向で、皆さんご了解していただいたということで、よろしいですか。判断ありがとうございました。

(事務局)

補足をよろしいですか。

今回の会議録作成について、ご自分の発言の内容で意図していない表現等がありましたら、個別に事務局にご連絡ください。その部分は修正して、最終版としていきたいと考えております。なお、本日の議案(2)の資料については、非公開を考えています。委員の皆様よろしいでしょうか。

(委員)

どういうルールで公開していくかは示さなくてよろしかったですか。

(事務局)

特に示す方向では考えていません。一つ一つの資料については、この会議の中で確認できればと考えています。

③議事3 令和6年度モニタリング事業評価(前期分)について

事務局が資料(掲載省略)に基づいて説明。

(委員) 若者によるまちづくり提案事業 WAKATTE について、事業評価の説明があった。

- ・参加チームがかなり少なく感じた。10チーム位あるとよい。
- ・豊田市が発展してきた背景を踏まえて、若者が今後の地域社会の発展につながる取組みに参画するのは大変よいことである。
- ・審査員は、日ごろ地域社会活動を実践していることから、大変すばらしい審査ができていた。一つ一つの事業をよく見て審査していた。

- ・各チームのプレゼンは、しっかりしており素晴らしかった。進行が上手く、和気あいあいとした楽しい雰囲気、各団体のアピールを引き出していた。
- ・審査の間の時間で、各チーム同士が交流し情報交換をしていた。
- ・大変よい企画だと感じたので、来年も是非、継続して進めてほしい。

若者によるまちづくり提案事業 WAKATTE について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

参加団体が少ないとの意見について、第1次審査ではもっとありましたか。

(事務局)

今回は全部で申込みが5団体でした。

(委員)

ちなみにどの団体のどんな内容が1位を取りましたか。

(事務局)

学生のグループで、アウトドア就活という企画の提案でした。室内で堅い雰囲気の中で行われる就活を、アウトドアで学生と企業をマッチングし楽しい雰囲気の中で就活が行えるという提案でした。

(委員)

それほど、お金がかからなかった。

(事務局)

そうです。

(委員)

2位はどんな団体でしたか。

(事務局)

2位は、100名のデザイナーを募集する団体でしたが、先日、辞退されました。

現在、3位の団体に声をかけて、実施の意思を確認できたところです。3位の団体は、親が見守る状況が多い中、親も一緒になって子どもと遊べる事業がしたいという提案です。

(委員) 若者応援事業インスタ「Choose Your Life 図鑑」について、事業評価の説明があった。

- ・若者による社会的課題の解決への取り組みが大変よく感じた。参加者が協力して取り組んでいた。
- ・参加人数はもう少し増やしてもよいと感じた。
- ・小グループに分かれリーダーの下で進行していろいろな案が出てとてもよい活動になっていた。
- ・若者と企業がよい方法で進めていく運営はたいへんよかった。今の若者はパソコンの使い方がすごく上手で早かった。
- ・参加者がいろいろと案を出して、積極的に話し合い、とてもよい雰囲気、和気あいあいと進めていたのがとてもよい印象だった。男女関係なく意見を出し合ってとてもよかった。
- ・次年度も継続するのであれば、ぜひ活動を継続して、さらに豊田市の企業を紹介してほしい。若者にも多くの参加を願いたいと思った。

若者応援事業インスタ「Choose Your Life 図鑑」について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

予算は、そのままハッシャダイソーシャル企画へ委託ですか。そういった相場ですか。

(事務局)

はい。今年度初めて実施していますが、来年度もハッシャダイソーシャル企画と若者応援事業は実施していくよう話はしています。

来年度は、回数を増やし、違った内容も学生が体験できる方向で調整しています。

(委員)

定員が12人、実際には15人の6回の学習で、かなり贅沢に使われたなと思います。定員はもっと増やせますか。

(事務局)

ハッシャダイのスタッフは多いわけではないので、あまり参加人数が多くなってしまうと、コミュニケーションが難しくなる。今回は、定員12名を15名で実施しているので、増やせるなら調整をしたい。

(事務局)

参加者の15名は、ハッシャダイの他の活動にも参加している積極的な方が多かった。その方々が、来年度リーダー格になっていただけると、よい循環になると思う。

(委員)

成果物はどこかで見ることはできるのですか。

(事務局)

インスタグラムでアップしています。

(委員)

全5回ですが、全員が毎回参加できたのですか。

(事務局)

当日欠席もありました。

(委員) 学生によるまちづくり提案事業について、事業評価の説明があった。

- ・事前に「何を」「何のために」「ニーズ」「コンセプト」「誰のために」企画の立て方の学びがあったのか気になった。
- ・前回は欠席した参加者もあり、当日のスタートラインに、バラツキがあった。それを揃えるのに時間のかかるグループもあった。
- ・グループワークをするなら、最低4名いるとよい。
- ・スタッフが非常たくさんいて、とても手厚いと感じた。
- ・「大学の先生の意見を聞いてみないとわからない」というグループがあった。大学の授業の一環なのかどうか気になった。
- ・予算は適正だと思う。
- ・事業全体のゴール及び当日のゴールを見ない状態での評価に戸惑いがあった。事務局から、どの部分をモニタリングするか、要望や説明があると見やすかった。

学生によるまちづくり提案事業について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

疑問点へのお答えをお願いします。

(事務局)

7月から1月までの継続事業の2回目を見ていただいた。

もう少し、内容と参加者の説明をした上で、見てほしいところについての説明が必要だったように思います。

(委員)

私が事前に聞きに伺わなければならなかった。午前より午後の方がよいことは事務局から言っていた方が良かったと思う。

(事務局)

学校の先生に確認が必要な件について、先生がゼミで小原地区の魅力発信の取り組みをしています。初回、参加時から、モチベーションが、先生の発言に依存しているところがありました。私も当日そのグループのサポートに入りました。

事前に、コーディネーターと共通認識として、グループのモチベーションの問題と実施する理由を気づかせる必要があることについて確認を行いました。実際に小原に行ったときに、小原の人たちにそれが伝わって悪い影響が出る可能性があります。これらの問題については時間をかけて伝えていけないと思いました。その後もオンラインミーティングで現状確認しながら、進めている状態です。

今日が行灯（あんどん）パレードの当日です。明日に中間報告がありますので、どういう状態か確認したいと思います。

スタッフが終始介入している点について、職員以外も、昨年度の参加者2人に協力してもらっています。その方に、昨年度の経験を踏まえてフォローしてもらいました。

(委員)

最初にあった、企画の立て方について学びがあったかどうかはいかがですか。

(事務局)

コーディネーターが、用意したワークシートを使い、内容やターゲット、スタートからゴールまでの企画作りを体験しました。企画の立て方を順番に学べる内容だったと思います。

(委員)

小原だけでなく、畑の堆肥作りや不登校とかも、かなり地域の団体との連携があるように感じますが、地域の人たちもスタッフの中に入ってきているのでしょうか。

(事務局)

書道が得意な高校生が小原和紙を使ってまちづくりを行う企画では、「和紙のふるさと」の方々にも協力をいただいています。また、弓道をとおして不登校という企画だと、「パークとよた」と連絡を取りながら、不登校の子やそうでない子も中京大学のスポーツフェスタに参加します。自分たちだけでなく、地域の方と町づくりの企画が進んでいると思っています。

(委員)

そういったプロセスが大事だと思います。ただし、私たちがそれを全て見るのが難しい。センターのスタッフのみなさんには見守っていただきたいと思います。

(委員) キャンプスタッフトレーニングキャンプについて、事業評価の説明があった。

- ・この活動が脈々と続いていることに安堵しました。
- ・参加者は、班活動を考慮すると、20人位がちょうどよいと思う。
- ・刃物と火の取扱いは、メリハリを付けて指導してほしい。危険なものに接するときは、一呼吸おいてスタッフがきちんと説明してほしい。
- ・火おこし器は、実用的でない。マッチの擦り方や災害時に役立つ方法が良いのではないか。

(事務局)

火おこし器は、体験する学校が多いです。全部の学校ではないですが、火おこし器を使って火をおこして、かまどに火を移して晩御飯をつくることをやっています。

(委員)

- ・表現力の問題として、柔らかい表情ややさしい言葉がけについても、指導があるとよい。
- ・受講したスタッフは、六所のキャンプカウンセラーになって、いろんな団体をサポートする。今後のセンターへの貢献度を考えたら、参加費は取らなくてよいと思う。
- ・小学生から見ると、キャンプスタッフは憧れの的である。その人たちとよい出会いがあれば、キャンプが好きになるきっかけとなる。

(委員) キャンプスタッフトレーニングキャンプについて、事業評価の説明があった。

- ・20名の、内18名が中京大学のサークル生で、他の2名は別大学でした。別大学の1名は、小学生の時から野外センターのイベントに参加しており、子ども達と関わりを持ち続けたい、このような施設で働きたいという思いで、スタッフをしているとのことでした。中京大学のサークル生にも聞いたら、子どもが好きだからという答えて、その温度差に驚いた。
- ・運営スタッフは、参加者の行動や活動内容や顔色を見ながら、状況を把握して、随所で素晴らしい声掛けをしていた。
- ・定番のプログラム内容だったが、グループの結束を上げ、少しずつレベルアップしていくような指導内容だと感じた。
- ・服装は、統一された服装で、身だしなみも適切だった。

キャンプスタッフトレーニングキャンプについて、以下のような質問と意見があった。

(委員)

参加者が20人で2,500円の参加日なので、予算でいくと10万円も集まっていないということですよ。

(委員)

これ1回で10万円ではないですよ。

(事務局)

はい。5回です。

(委員)

20名中18名が中京大学のサークル生ということですが、これはいわゆるキャンプカウンセラーのグループですか？

(委員)

キャンプカウンセラーではなくて、中京レクの方ですよ。

(事務局)

そうです。

(委員)

まだ六所でカウンセラーをやっていないメンバーですか。

(事務局)

やっているメンバーも、今年から始めたメンバーも混在していました。

子どもころから野外センターの事業に参加をされていて、スタッフになったというエピソードは、過去に1年スパンをかけて、小学生の高学年から中学生を対象にした山の子学級という事業の参加者です。ずっと長くやっていたのですが、なかなか参加者が1年間やりきることが難しいこともあり終了しました。ただ、子どもころからの流れが大学生につながり、さらに指導者につながっていく効果を見逃せないなので、山の子学級を令和7年度の事業に復活させる予定です。

以前のような周年ではなく、複数回3か月間子どもたちが参加できて、野外センターの魅力を掘めるような事業を、来年度は復活させたいと考えています。

(委員)

山の子学級は前にモニタリングしたことがあって、季節をとおして参加することの大事さというものを感じました。夏だけではなくて、冬も春の時期も体験していくことが、自分もやろうかなという気持ちにつながっていくと思いますので、また来年、期待させていただきたいと思います。

さきほどの刃物の件が気になりますけども、学生がそんな雰囲気だったですか。

(委員)

上の学生から下の学生までいますから、上の学生がちょっと教え方を端折っていったのかもしれませんが。まんべんなく見ると、レベルは高い方なのですが、たまたま、そのグループがそうだったようです。

(委員)

そういうシーンがあったときに、モノが言えるのは自然の家のスタッフです。見たらすぐその場で指摘をして、正しいやり方を伝えておかないと、またどこかでそれをやってしまう。次、子ども達が来た時にも、同じことをやらせたら、大変なことになるので、危険物を扱うときは広く目を光らせていただきたいと思いました。

(委員) ファミリーキャンプ8月

ファミリーキャンプ8月について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

参加者負担はいくらで計算されていますか。

(事務局)

1 家族 200 円です。

※訂正参加費は 600 円×9 家族×2 回 = 10,800 円

(委員)

それで 10,800 円になるのですか？

(委員)

合計 7 回あります。各回 8~9 家族だとそれぐらいになると思います。

(委員)

たいへん高い評価をしていただいていたました。

(委員) 学習指導要領発展事業「細胞の作りと DNA」について、事業評価の説明があった。

- ・ DNA は、そんな見えるものではないという思いで参加したが、終わったころには、こういうやり方もあるのか、これは素晴らしいなと思った。実際に見た DNA の姿にびっくりした。
- ・ 参加者は 14 人だった。顕微鏡が 15 台であることから、これ以上参加者を増やせないことを聞いた。これ以上増えても、目を配れるスタッフの方がいないことから、これで十分だったと思う。しかしスペースには余裕があったので、保護者も一緒に参加してもらえたら、子どものできたや見えたよという瞬間を共有してもらえて面白かったのではないかと思った。
- ・ 講師は 1 名。スタッフが 1 名。学生のスタッフが 1 名合計 3 名だったが、もう一人スタッフの方がいれば、子ども達が右往左往する時間が少なくなって良よかった。
- ・ プログラムの内容は、参加者が用意した試料について、顕微鏡の使い方を学びながら実験を進めた。準備する、探す、かき混ぜる等、時間をかけるべきところに関しては、講師の先生がゆっくりと、しっかりと時間を使う配慮がされていた。そういった配慮が凄くよかった。その結果、参加者の反応として、「あっ、見えた！」という大きい声が上がって、みんながそれに反応して自分も自分もとなって、一生懸命探していた。講師の方は、楽しいな、感動するなという研究にしたいと、いつていた。
- ・ 実験材料の方は、家から持ってくるから、その時から実験が始まっていて、子ども達は自分のカバンから出す作業も、実験の楽しさの一つとしてよかったと思う。
- ・ 科学を探究するきっかけづくりの時間をどんどんつなげて、開催してほしい。できたとか、見つけたとかという、瞬間をどんどん広げていってもらえればと思う。
- ・ 講師の言葉ですごくよかったのは、科学は 1 人ではできない、準備などみんなの協力があって目的が達成できる。小学生に、この言葉は重いだろうと思ったが、その言葉一つ一つを具現化するための準備や実験の手法がすごくよかったと思う。
- ・ 2 ナノメートルという、見るできないものをどうやって見させるかという、作業が今回の実験ですごく印象に残った。
- ・ 学んだことを活かしてほしい。できたことを認める。という講師の言葉もすごく心に残った。

学習指導要領発展事業「細胞の作りと DNA」について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

なんか学校でもできる。

(委員)

中学校 3 年生がやっている。〇〇を勉強した後に〇〇をとりだしてみようっていう。

(委員)

中学校 3 年生の内容を小学校高学年の子が体験した。

(委員) プラネタリウムコンサート「星祭～ミュージカルソーに願いをのせて～」について、事業評価の説明があった。

- ・7月のコンサートがモニタリング事業にあったので参加した。ミュージカルソーの金属音が涼し気な感じで夏向きだと思った。また、熱い夏の時期に涼しいプラネタリウムで過ごせ、クーリングシエーターの役割も果たしていた。
- ・参加人数は、かなり応募があったとのことで、人気のあるイベントだと思った。大人の方が多かったが、子ども連れもいたので、小学生以上という対象が妥当だったと思う。
- ・運営スタッフは、入口に配置されていた。駐車場の関係なのか遅れ客がありましたがスムーズに案内されていて良かった。
- ・星空解説のスタッフの方の声は聞きやすくいい声だと思った。
- ・1人声を発したりする方がいた。今後、こういった場合に対する配慮義務があるので、インクルーシブ的な対応を考えていく必要があると思った。
- ・プログラムの内容は、アンコールを入れて 100 分の内容でちょうどよいと思った。
- ・サウンドエンジニアは、ミュージカルソースは別の音を流していて、バランスよくやれていた。演奏中の背景も幾何学模様や星空も涼しい雰囲気演出していて、夏に涼しい思いができてよかった。
- ・プラネタリウムならではの弧を描いている席だったので、見やすいと話している方がいた。
- ・開演前にスマートウォッチの電源について注意のアナウンスがあった。最初、スマホで撮っている方いたが、係の方がすぐ気づいて注意していた。アンコールの時はスマホ撮影の許可があったので、多くの方がスマホで撮っていて、いい配慮だったと思う。
- ・予算ですが、この演者はプロフィールを見ると、いろんなところで活躍していて、NHKの番組の音楽も作っている。チケット代が 1,000 円で、プラネタリウムを見ると普通 300 円だから、700 円で演奏が聴けた感覚だった。映画館に行っても 1,800 円位取られることを考えると、かなりお得な感じがした。
- ・総合的な評価は、演者は、まだアイデアは 10、20 あるということなので、継続できる事業だと思った。ミュージカルソーを生で聞いたことが無かったので、良い機会だった。
- ・映像もリニューアルされたということで、すごくきれいな映像を見ることができた。
- ・駐車場の問題があると感じた。ゲートに警備員がいて空いているところを案内してくれた。
- ・チケットも紙ケースに入っていたので、贈り物にもできると思いました。ただのペラペラの 1 枚ではなくて、立派なケースだった。

プラネタリウムコンサート「星祭～ミュージカルソーに願いをのせて～」について、質問と意見

はなかった。

(委員) 街中の星見会「まちぼし」

(委員)

評価書は、今後の参考にしていただけたらと思います。

(委員) 宇宙飛行士ワークショップ「ファイブ・ミッション」について、事業評価の説明があった。

- ・背景として宇宙飛行士、宇宙ベンチャー等あるなか、小学校の低学年がどれくらいのレベルなのか興味があって参加した。
- ・ねらいは、訓練プログラムだけでなく、ロケットの工作もあったので、モノづくりも味わえてよかった。大学生が講師で、若者の活躍の場にもなっていたので、財団のねらいである若者の育成ということにも即していた。
- ・参加人数は、スタッフが1グループに1名はついていたのでよかったと思う。低学年だから扱いが難しいかと思ったが、大学生が上手に声掛け等してよかった。保護者も十分座って見えるスペースがあったので、どこかに行ってしまう保護者もいなかったと思う。
- ・運営スタッフの配置は十分だった。学生スタッフがうまくファシリテーターの役をしていた。意見が分かれたときは、多数決を取るなどして、上手にやっていた。早く終わってしまったグループは、もう一回やるよう促したり、宇宙の話をしたりして、触れ合っていてよかった。体験館のスタッフは、開会と閉会と工作の準備などのサポート役をして、影で支えていた。
- ・プログラムは5つの内容があった。学校だと45分で途中トイレ休憩とかあるが、トイレなども行く子が少なく、集中して参加していた。
- ・最後、屋外で傘袋ロケットを飛ばして、解散ということで進行の順序もよかった。忘れ物への配慮もよかった。
- ・ホワイトパズルは全員1個ずつやるかと思ったら、1人2ピースずつ配って、どこに当てはまるかをやっていた。鏡をなぞる絵柄も1種類でなくて何種類も選べるようになっていて、工夫してよかった。高学年も同じ内容でやったのか、ピースを増やすとか、もっと複雑な絵柄があったのか、ちょっと差があったのか疑問に思った。
- ・傘袋ロケットを飛ばすとき、ちょうど台風でいい風が吹いていたので、よく飛んでいた。何回も何回もチャレンジして飛ばしている子もいて、学校でも図工の時間とかでやりたいと思った。
- ・保護者の方で、自分の子どもの様子を写真に撮りたい方もいたので、「席の方にご自由に入ってくださいね」とアナウンスしてもよかったかと思ったが、子どもたちの邪魔になってもいけないので、あえて言っていないのかなと感じた。
- ・予算は、ミニワークショップが100円で今回も100円ということで、お値打ち感があった。
- ・総合的評価は、宇宙開発競争とか日本も民間が参加しているなか、すごく意義があったと思う。応募者が20名×2部に対して113名もあったので、これからも続けて、今回参加できなかった子ども達が参加できるとよいと思った。

- ・学生スタッフは工学部の学生が多かった。子どもの扱いが得意な教育学部の学生がいたらよかった。今は人材不足と言われている教員になりたい方が増えると嬉しいと思った。

宇宙飛行士ワークショップ「ファイブ・ミッション」について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

質問に回答をお願いします。

(事務局)

1点目のホワイトパズルの午後は、同様の形で進めていたと聞いています。

2点目、教育学部の学生の事業参加ということですが、今のところこれに関しては、ラインナップのとおりですので、今後検討していきたいと思います。

(委員)

たくさんの応募がありますので、2回と言わず、回数がもし増やせるのであれば、増やしていただければと思います。

④議題4 令和6年度モニタリング事業（後期分）について
事務局が資料（掲載省略）に基づいて説明。

(4) その他

①令和6年度第3回青少年育成委員会の日程について
出席者及び欠席委員の都合を確認し、次に決定した。

期日／令和7年2月16日（日）午後2時

会場／青少年センター

内容／モニタリング事業評価・令和7年度事業計画（案）など

②各施設からの諸連絡

なし

以上